

〔巻頭言〕

## どうなる SPF 豚農場

株シムコ 園 田 昭 浩

今年も年度末をむかえ、1年を振り返る時期になりました。

昨年まで猛威を振っていた PED も再発、散発はあるものの、落ち着いてきた感があり、他に大きな疾病の影響もなく、豚価も安定しており、養豚業界においては良い1年を送ることができた生産者は多いのではないのでしょうか。

このような年でも、利益を上げられず、生産と経営の悪化に苦慮している生産者がいるのはなぜでしょうか。生産性は何に左右されているかを改めて考えてみると、農場設備、品種、病気、飼料、水、糞尿処理、ピッグフロー、防疫、人、資金、販売等です。これらの要因は SPF 豚という豚を使うことで、計り知れない利益をもたらすことが期待されてきました。ところが、近年は SPF 豚農場以外でも農場防疫および衛生レベルの向上や最新の豚舎設備、高繁殖能力豚の導入、的確なワクチンプログラムの遂行で、生産成績では SPF 豚農場に負けない、いや、それ以上の成績を出している農場が増えてきたのも事実です。SPF 豚の特定病原菌が無いから大丈夫という時代ではなく

なっています。むしろ、PRRS やサルモネラ、サーコ、APP、PED などの疾病の方が生産性や経営に与えるインパクトが大きく、今後、SPF 豚としてこれらの疾病の取り扱いを検討すべきではないかと考えます。

豚肉の安全性について、十数年前に農場 HACCP に関する認証制度がスタートしましたが、当初は認証農場も少なく、業界に浸透していませんでした。しかし、2020年東京オリンピック開催が決まってからというもの、急速に認証農場（推進農場）の申請が増えてきました。現在 SPF 豚認定農場も、更なる成績性向上と従業員のスキルアップ、消費者に対する肉豚の安全性のアピールを主たる目的に、HACCP の認証を取られるところが増えてきており、今後、益々 SPF 豚農場の HACCP 認証が増加していくものと思われます。「安心安全を提供してきた SPF 豚でなくとも HACCP の認証があればいいのだ」といった風潮になりつつあるこのごろ、SPF 豚の価値を如何に高めていくべきかを考えなおさなければならない時代にきているようです。